

門松ものがたり vol.04



門松に命を吹き込む、新年を彩る最後の仕上げ

華やぐ門松 匠の仕上げ

最後の仕上げに松を挿していきます。

竹を固定するために使ったおがくずに水分を含ませ、設置期間中も松が枯れにくいよう、細かく気を配っています。

桃原農園の門松は、長年、松・竹・梅だけの趣のあるシンプルな門松でした。

しかし時代の変化とともに、お客様のご要望に合わせ、現在では飾り付きの門松も制作しています。新しい年を、より華やかな気持ちで迎えていただけるよう、一つひとつ丁寧に仕上げています。

4、松挿し、仕上げ



美しい形になるようバランスよく仕上げの松を挿していきます。

運送中の揺れによって竹が倒れないよう、土台の安定を高めるために、松は隙間なくしっかりと挿し込んでいます。



最後に全体を見直し、細かなズレや違和感がないかを確認しながら飾りを付けます。お届け後すぐに美しく飾っていただけるよう、見栄えと安定感の両方を整えながら仕上げています。

手作りだからこそその価値

門松は、年神様をお迎えする大切な正月飾りです。だからこそ桃原農園では、量産ではなく、一つひとつを手作業で丁寧に仕上げています。

見えない部分にまで手をかけ、受け継がれてきた技と工夫を重ねながら、一本一本に想いを込めています。決して安価ではありませんが、その手間と時間こそが、手作りの門松にしかない価値だと考えています。

編集後記

近年は、物価の高騰や人材不足など、門松づくりを取り巻く環境も大きく変わってきました。効率やスピードが求められる時代の中で、手間のかかる手作業を続けていくことは、決して簡単なことではありません。それでも門松を作り続けるのは、この伝統を絶やしたくないからです。受け継がれてきた技術や想いを少しでも伝えたいという気持ちで、「門松ものがたり」を制作しました。